

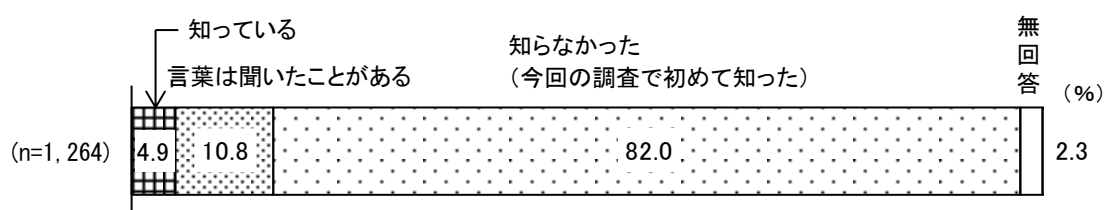
第4章 ともに生きる社会かながわ【問17～問22】

1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度【問17】

【全体の状況】

ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が82.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.8%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度



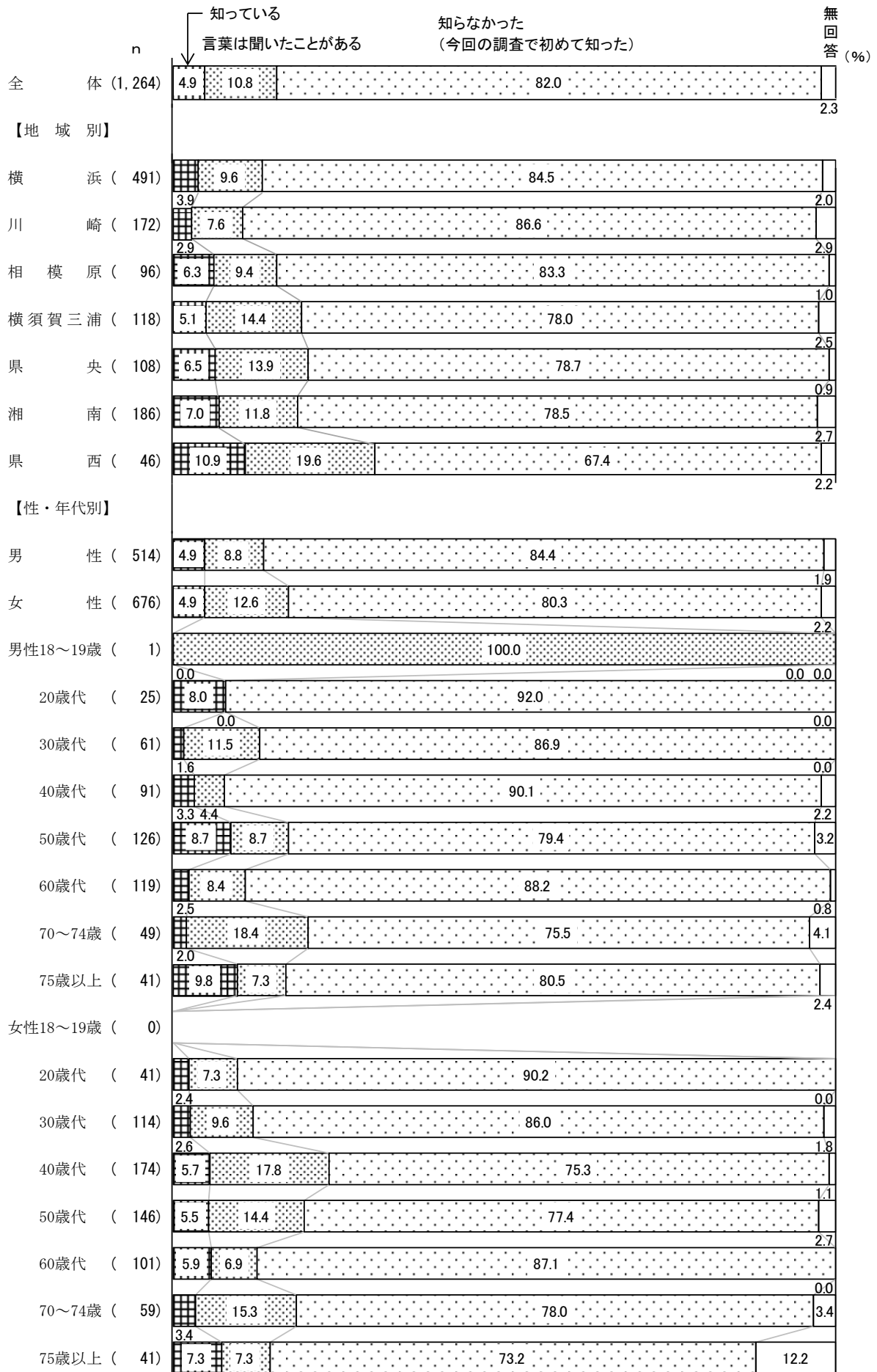
【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、川崎が86.6%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が19.6%で最も多く、次いで横須賀三浦が14.4%であった。（図表4-1-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の40歳代（90.1%）と女性の20歳代（90.2%）がともに9割であった。また、「言葉は聞いたことがある」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の70～74歳が18.4%で最も多かった。（図表4-1-2）

図表4-1-2 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度—地域別、性・年代別

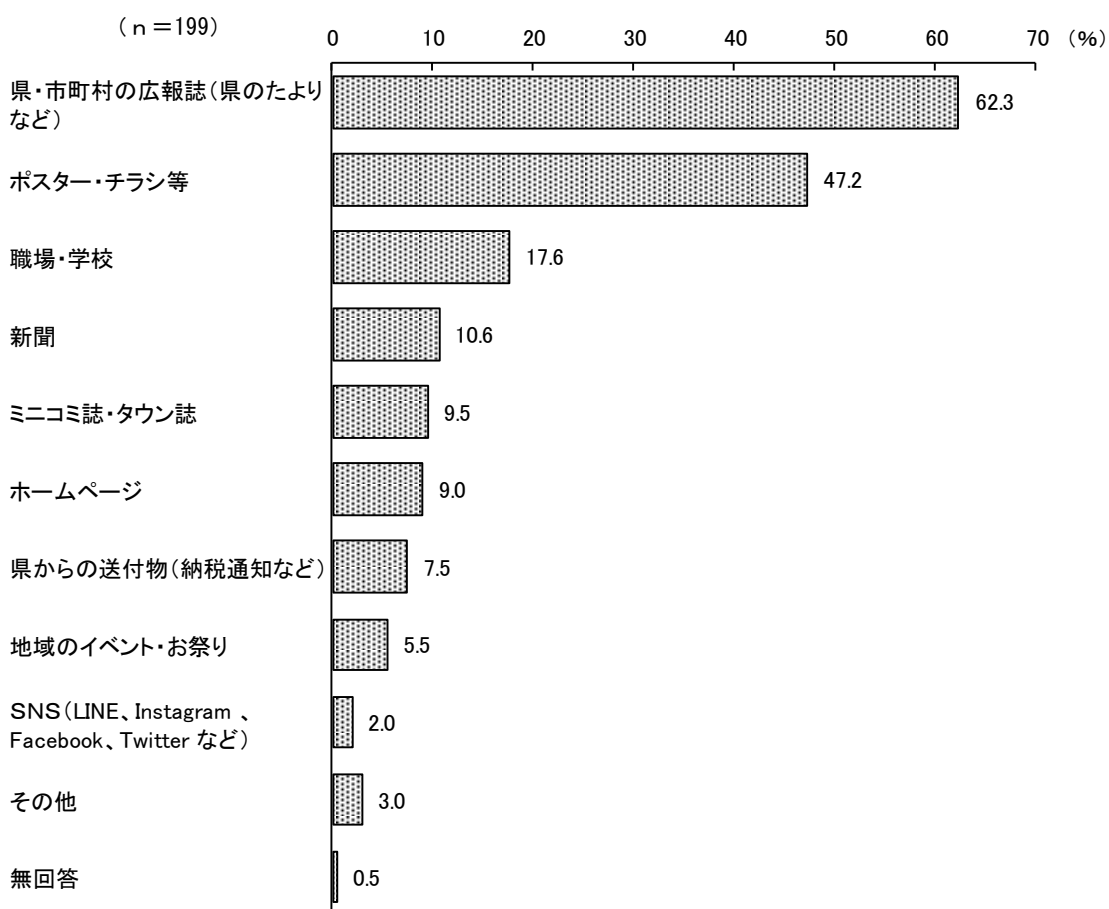


2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法【問17-1】

【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問17）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した199人にとともに生きる社会かながわ憲章を何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が62.3%で最も多く、次いで「ポスター・チラシ等」が47.2%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）



図表4-2-2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

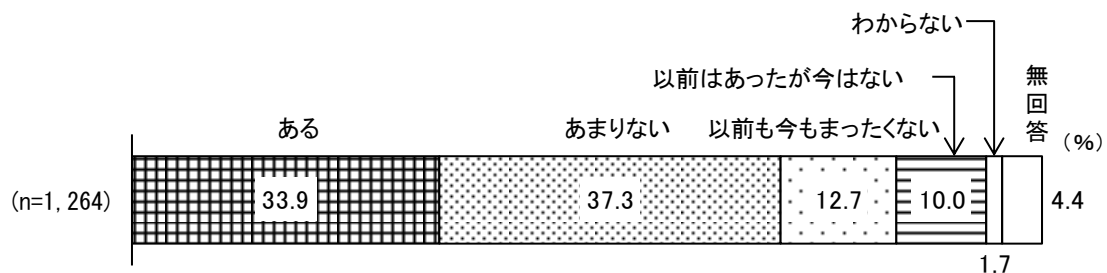
(%)												
	n	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	ポスター・チラシ等	職場・学校	新聞	ミニコミ誌・タウン誌	ホームページ	県からの送付物（納税通知など）	地域のイベント・お祭り	F S N S（LINE、Facebook、Instagramなど）	その他	無回答
全 体	199	62.3	47.2	17.6	10.6	9.5	9.0	7.5	5.5	2.0	3.0	0.5
【地 域 別】												
横 浜	66	68.2	45.5	15.2	7.6	9.1	9.1	10.6	-	3.0	1.5	-
川 崎	18	61.1	33.3	5.6	-	5.6	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6	-
相 模 原	15	33.3	53.3	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	-	-	-
横須賀三浦	23	65.2	60.9	17.4	4.3	13.0	13.0	4.3	8.7	4.3	4.3	-
県 央	22	68.2	45.5	22.7	18.2	13.6	4.5	9.1	9.1	-	4.5	-
湘 南	35	51.4	48.6	17.1	17.1	5.7	11.4	5.7	5.7	-	5.7	2.9
県 西	14	64.3	50.0	28.6	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-
【性・年代別】												
男 性	70	55.7	41.4	12.9	12.9	8.6	15.7	12.9	4.3	2.9	2.9	-
女 性	118	64.4	51.7	21.2	8.5	8.5	5.9	4.2	5.9	1.7	2.5	0.8
男性18～19歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	2	-	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
30歳代	8	62.5	50.0	12.5	-	-	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	-
40歳代	7	71.4	42.9	-	-	-	14.3	28.6	-	14.3	-	-
50歳代	22	45.5	36.4	27.3	9.1	-	22.7	9.1	9.1	-	4.5	-
60歳代	13	53.8	46.2	15.4	15.4	23.1	15.4	7.7	-	-	-	-
70～74歳	10	70.0	30.0	-	30.0	20.0	-	10.0	-	-	-	-
75歳以上	7	71.4	42.9	-	28.6	14.3	-	28.6	-	-	-	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	25.0	75.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-
30歳代	14	50.0	42.9	28.6	-	7.1	7.1	7.1	7.1	-	-	-
40歳代	41	58.5	53.7	24.4	4.9	7.3	7.3	2.4	7.3	4.9	2.4	-
50歳代	29	75.9	55.2	24.1	3.4	6.9	3.4	6.9	3.4	-	3.4	-
60歳代	13	76.9	53.8	30.8	15.4	15.4	-	-	-	-	7.7	-
70～74歳	11	81.8	45.5	-	27.3	-	9.1	9.1	9.1	-	-	9.1
75歳以上	6	50.0	33.3	-	33.3	33.3	16.7	-	-	-	-	-

3 身近で障がい者と接する機会【問18】

【全体の状況】

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(33.9%)と「あまりない」(37.3%)がともに3割台であった。(図表4-3-1)

図表4-3-1 身近で障がい者と接する機会



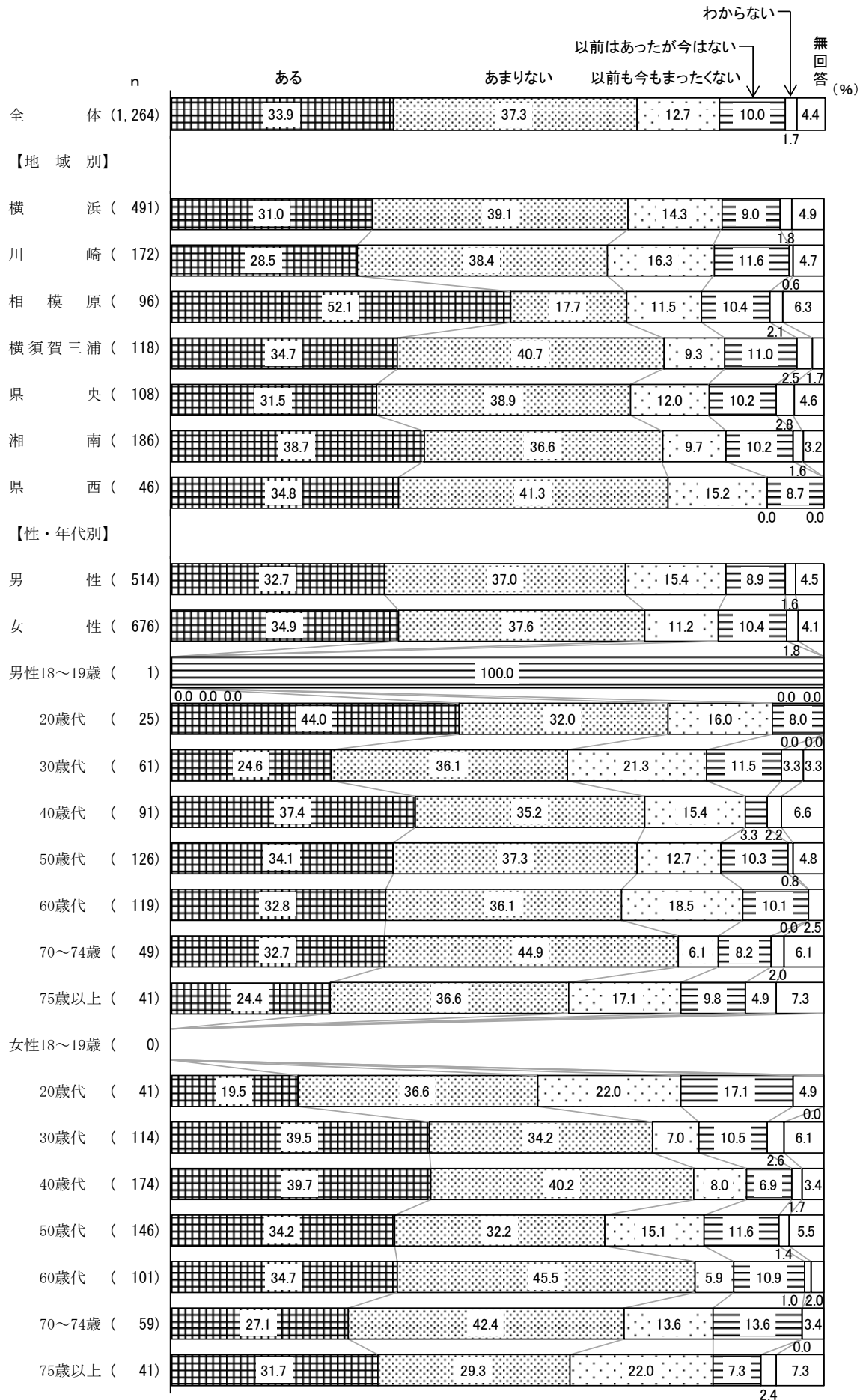
【地域別の状況】

地域別にみると、「ある」は、相模原が52.1%で最も多かった。また、「あまりない」は、県西(41.3%)と横須賀三浦(40.7%)がともに約4割であった。(図表4-3-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「ある」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性の40歳代が39.7%で最も多く、次いで女性の30歳代が39.5%であった。また、「あまりない」は、男性の70~74歳(44.9%)、女性の40歳代(40.2%)・60歳代(45.5%)・70~74歳(42.4%)がそれぞれ4割を超えた。(図表4-3-2)

図表4-3-2 身近で障がい者と接する機会—地域別、性・年代別



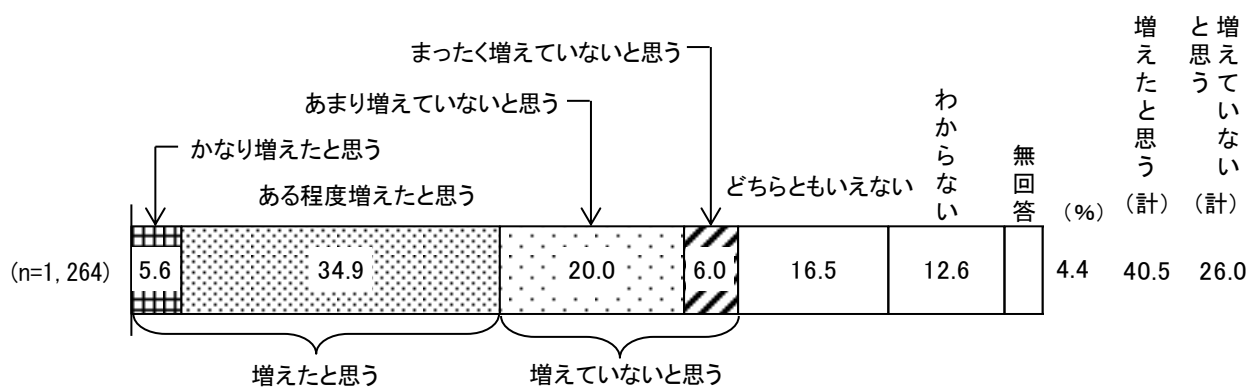
4 障がい者に配慮した行動をとる人【問19】

【全体の状況】

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(5.6%)と「ある程度増えたと思う」(34.9%)を合わせた《増えたと思う》は40.5%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.0%)と「あまり増えていないと思う」(20.0%)を合わせた《増えていないと思う》は26.0%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



【地域別の状況】

地域別にみると、《増えたと思う》は、県西が50.0%で最も多く、次いで横須賀三浦が45.7%であった。

一方、《増えていないと思う》は、湘南が30.1%で最も多く、次いで相模原が29.2%であった。

(図表4-4-2)

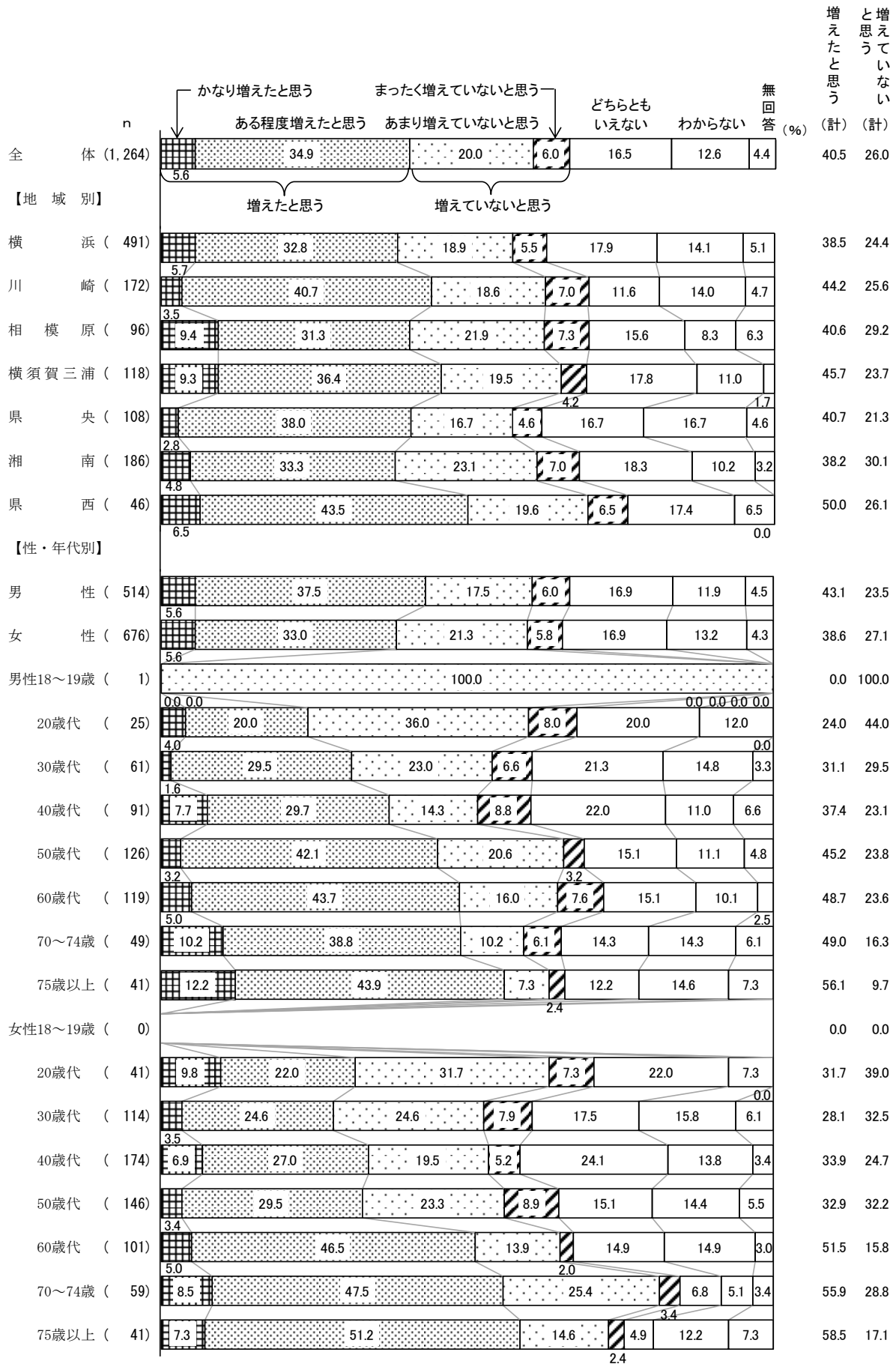
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《増えたと思う》は、男性の75歳以上(56.1%)、女性の60歳代(51.5%)・70~74歳(55.9%)・75歳以上(58.5%)がそれぞれ5割を超えた。

一方、《増えていないと思う》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、女性の20歳代が39.0%で最も多く、女性の30歳代(32.5%)・50歳代(32.2%)が3割台で続いた。

(図表4-4-2)

図表4-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



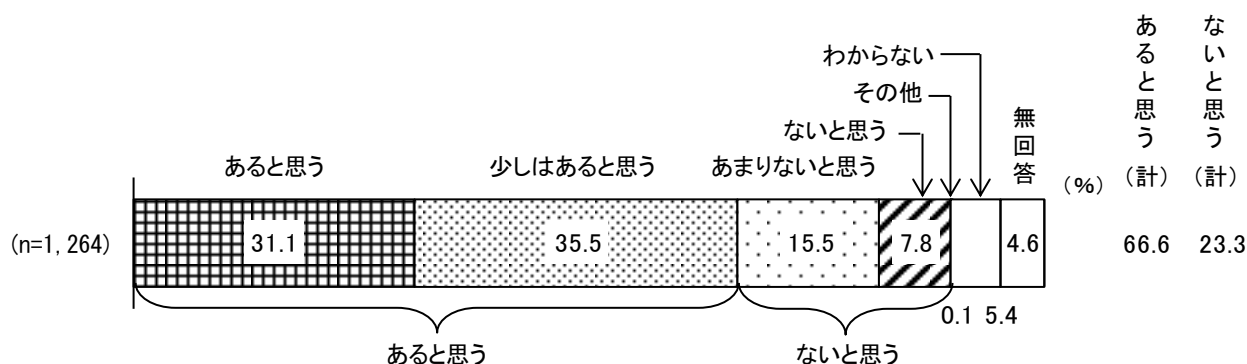
5 障がい者への差別・偏見の有無【問20】

【全体の状況】

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(31.1%)と「少しはあると思う」(35.5%)を合わせた《あると思う》は66.6%であった。

一方、「ないと思う」(7.8%)と「あまりないと思う」(15.5%)を合わせた《ないと思う》は23.3%であった。(図表4-5-1)

図表4-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



【地域別の状況】

地域別にみると、《あると思う》は、川崎が74.4%で最も多かった。

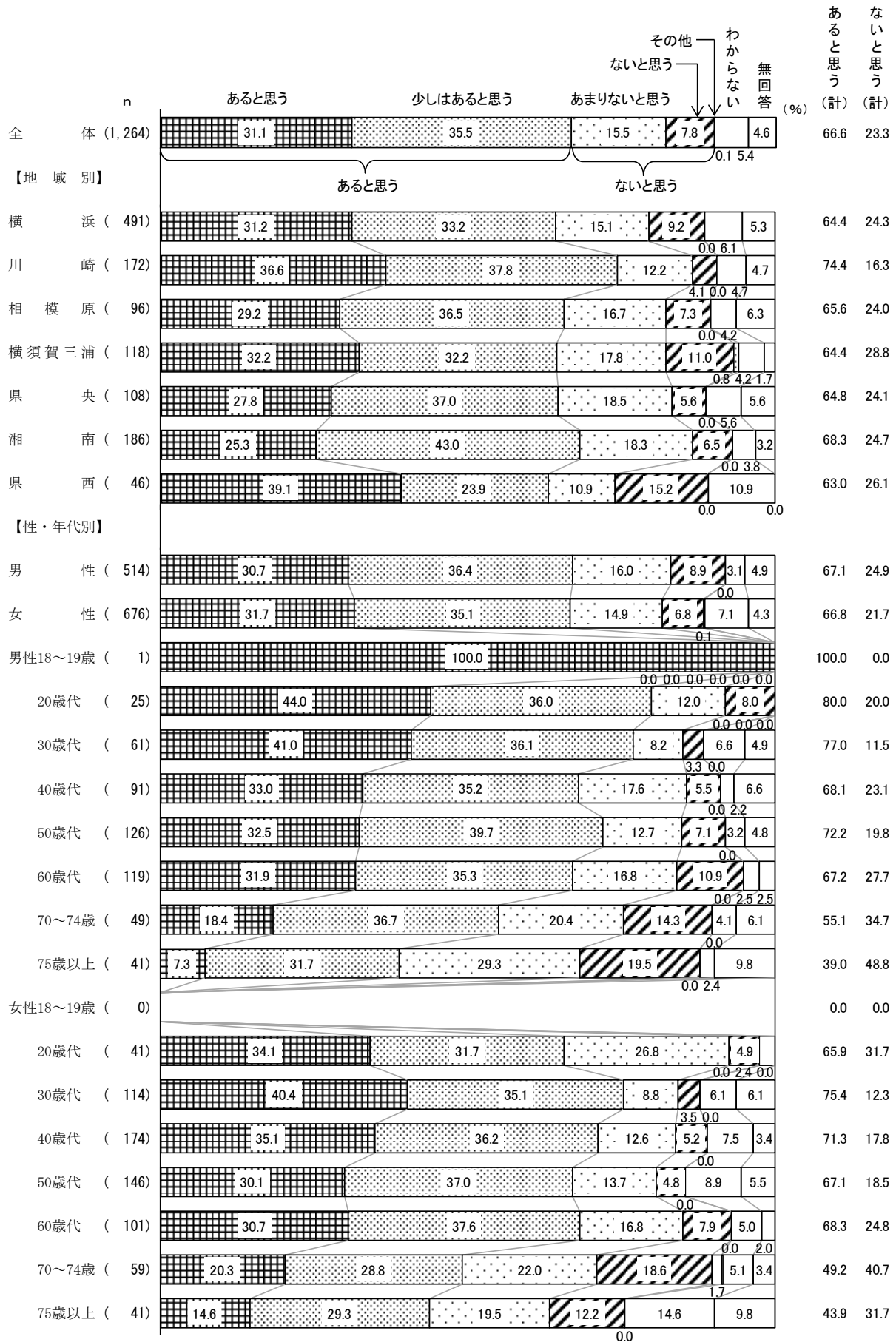
一方、《ないと思う》は、川崎(16.3%)を除く6地域(24.0%~28.8%)がそれぞれ2割を超えた。(図表4-5-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《あると思う》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、男性の30歳代(77.0%)・50歳代(72.2%)、女性の30歳代(75.4%)・40歳代(71.3%)がそれぞれ7割を超えた。

一方、《ないと思う》は、男性の75歳以上(48.8%)と女性の70~74歳(40.7%)がともに4割を超えた。(図表4-5-2)

図表4-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別

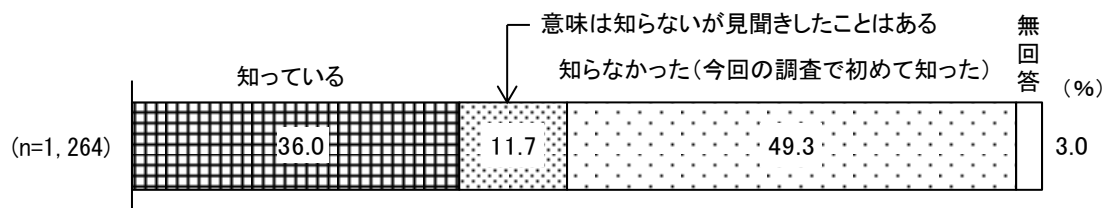


6 ヘルプマークの認知度【問21】

【全体の状況】

見目で分かりにくい内部障がい等に対して配慮が必要なことを示すヘルプマークを知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が49.3%で最も多く、次いで「知っている」が36.0%であった。（図表4-6-1）

図表4-6-1 ヘルプマークの認知度



【地域別の状況】

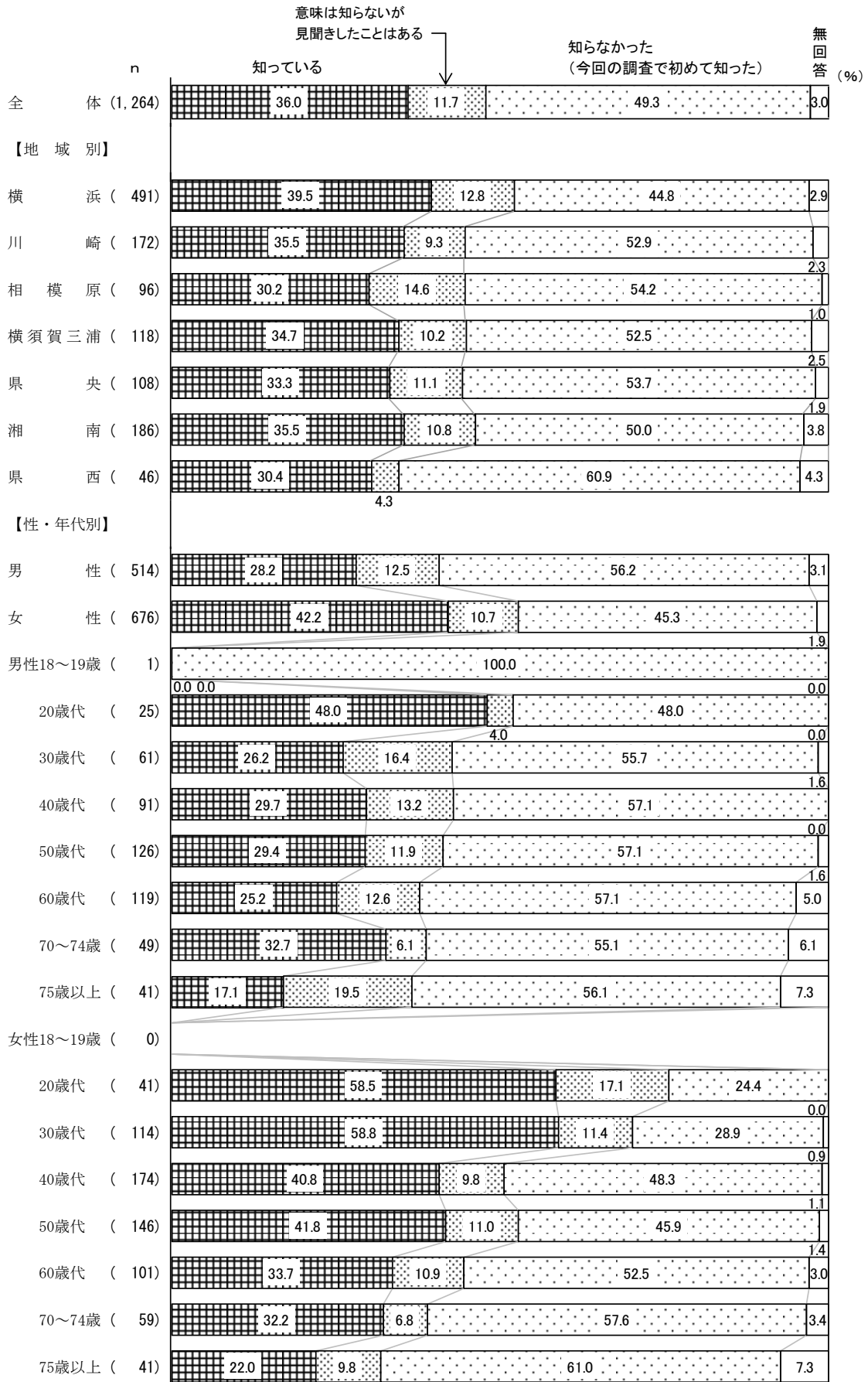
地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、県西が60.9%で最も多かった。また、「知っている」は、横浜が39.5%で最も多かった。（図表4-6-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「知っている」は、女性（42.2%）が男性（28.2%）を14.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が61.0%で最も多く、次いで女性の70～74歳代が57.6%であった。また、「知っている」は、女性の20歳代（58.5%）・30歳代（58.8%）がともに約6割であった。（図表4-6-2）

図表4-6-2 ヘルプマークの認知度—地域別、性・年代別

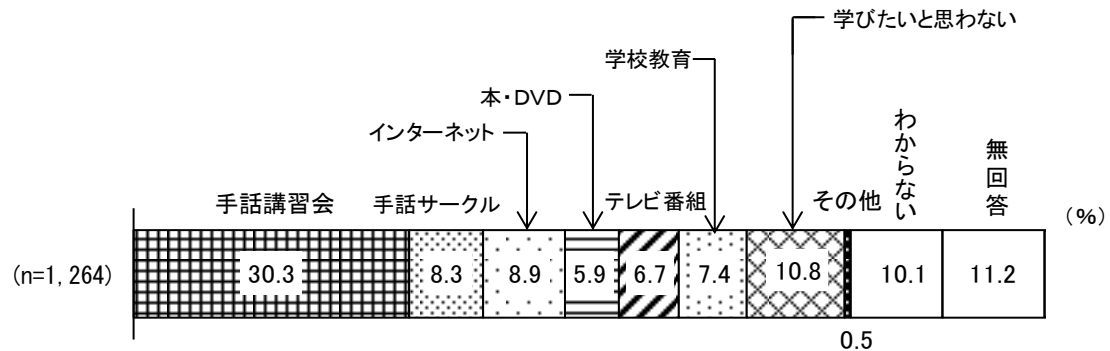


7 希望する手話の学習方法【問22】

【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が30.3%で最も多く、次いで「学びたいと思わない」が10.8%であった。(図表4-7-1)

図表4-7-1 希望する手話の学習方法



【地域別の状況】

地域別にみると、「手話講習会」は、横須賀三浦が39.8%で最も多かった。また、「インターネット」は、横浜と相模原がともに10.4%であった。(図表4-7-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「学びたいと思わない」は、男性(16.3%)が女性(7.1%)を9.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「手話講習会」は、女性の50歳代が41.8%で最も多く、次いで女性の60歳代が36.6%であった。また、「インターネット」は、男性の30歳代が27.9%で最も多かった。(図表4-7-2)

図表4-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

